

ひろば大代

NO. 214

大代公民館

就任ご挨拶

公民館長 渡 吉正

四月二十一日より市原仁郎前館長ご勇退に伴いまして、再び館長の重責を担うこととなりました。

無論私はその任ではありませんが、公民館運営委員会並びに自治会連合会の皆様方の強いてのご要望で、お引き受けせざるを得なくなりました。

不肖私は昨年三月末に母の病氣介護と自身の病氣の為に、ご挨拶もせず退任致しました。この一年で母は亡くなり私の病氣も三つに増えましたが、病を氣にせず出来る限り頑張つて行く心構えで任期を満了したいと存じます。

皆様方には以前と同様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げますと共に公民館事業に対しましても絶大なご支援とご協力を頂きますことを併せてお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

平成九年度大代公民館事業の

実践目標と重点事業

「実践目標」

- (一) 高齢者の福祉向上と生きがい対策の推進

- (二) 若者に自意識の変革を促し、教養の向上をはかる

- (三) 郷土愛を醸成する

「重点事業」

- 高齢者への福祉活動促進（若者との交流と高齢者の介護）
- 若者の教養講座開設（礼儀・作法を身に付けてもらう）
- 郷土の歴史と文化財の研修（ふるりの史跡公園構想立案）
- 生活習慣の改善をはかる（冠婚葬祭と成人式の簡素化を考える）
- 都市とふる里を結ぶ交流事業の見直し（心の交流をはかる）
- 明るい町づくり推進と交通安全対策

- （子供と高齢者への実地指導教室の開設）

新校舎

大代小学校校長 布野伸一郎

何と運のいいことか。私、今度で新校舎に入れること、四度目。そのたびに感じる新しい校舎の香り、それは、鉄やコンクリートであったり、木であったり、時代時代で違っている。

しかし、いつも、その時代にマッチしながら、先取りもちゃんと取り入れその地域の文化の中心という存在感を持った建物であった。

今度の大代小学校もすばらしい学校である。そして、もうこれで新校舎に入ることもないと思われる私にとって究極の校舎なのである。

温かさと楽しさと機能性がマッチした本場にすばらしい学校である。あとに続く屋内運動場と校庭とプールとが完成した暁には、今より数段の温かさ、楽しさ、機能性との調和のとれた校舎が出現するかと思えば本当に楽しみなことだ。

これもひとえに地域の皆様方のお陰と衷心より感謝。本当にありがたいことだと思ふ。

さて、このすばらしい学校を子供たちにとっても、地域の皆様方にとっても有益な学校にすることが、新校舎に

入らせてもらった私たち教職員の務めだとの使命と責任の重さをひしひしと感じているのは、私だけではないと思う。

今までの伝統を大きな幹とし、そして、そこに新しい枝、葉、花を茂らせていきたいものと切に思う。

今後とも、地域の皆様のお力をお借りしながら、大代教育の充実のため、頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。

まず、その第一歩として、開かれた学校でありたいと思います。ご遠慮なくいつでも学校を訪れてください。



社会人になって

四日市 森田才恵

一年間の組合学校の専修課程を終了し、四月より新社会人として、地元でお世話になっていきます。

勤め始めの頃は慣れないことや分からないことが多々あり、迷惑をかけることの連続でした。心も体も疲れて帰宅する自分に、日々の両親の励まし、そして地元のみなさん一人一人の言葉に感謝し、毎日を一生懸命に頑張っています。

これからも広く物事に関心を持ち、多くの方達との出逢いを無駄にせず、更に自分を磨いて行きたいと思っています。

どうぞ、今後共宜しくお願い致します。

春日行雄氏のご活躍について

東京石見高山会の幹部の米原光義氏から「恩師の大代小学校の元代用教員現日本モンゴル協会理事長の春日先生の近況と奉仕活動が先日、産経新聞に

掲載されているので是非郷里の方にも紹介したいと連絡がありました。

以下新聞記事紹介

「抑留の地」モンゴル支援

私費で子供の寄宿施設

軍医時代にモンゴル抑留経験があり交流活動をつづけている「社団法人・日本モンゴル協会」の理事長、春日行雄さん（七六）が、横浜市神奈川区片倉町四一―Ⅱが、私費で首都のウランバートル郊外に恵まれたないう子供たちが学校に通うための寄宿施設を作る。

今年は国交二十五周年にあたり、この施設を「テムジンの友塾」と名付け「ひと粒の種をまくつもりで活動を広げたい」と話している。

旧社会主義諸国で、民主化されたモンゴルだが、親の失業などによる家庭生活の崩壊で身寄りのない子供たちが増加しているという。

春日さんは島根県出身。満蒙開拓にあこがれ、昭和十四年、十八才でモ



春日行雄さん

ンゴルに渡った。その後、旧満州國陸軍軍医学校で医学を学んだ。戦時中は軍医や通訳を務め、終戦でウランバートルへ連行され、二年間の抑留生活を送った。

抑留中は収容所の病院の医師や語学を生かしモンゴル側との折衝役などを務めた。冬の最低気温は氷点下四〇度にもなる過酷な環境で抑留中に数多くの日本人が倒れた。

春日さん自身も「今日もまだ生きていたかと奇跡に思う」という生活状態だったと云う。そんな状態を何とか生き延び、「モンゴルの人たちは素朴で抑留生活の陰で大変親切にしてくれた」と、帰国後、国交のない時代からモンゴル墓参の実現に尽力するなど交流活動を続けている。

寄宿施設の建設は、モンゴルの知人から、自由化の一方、家庭生活の崩壊などで身寄りのないホームレスの子供たちが数多くいる問題を聞いたことがきっかけ。

昨年三月に保険会社の診査医を退職五十年にわたる医師生活に区切りをつけたこともあって施設づくりを実現に

移した。

準備資金は百五十万円、毎月の運営資金は約十万円、春日さんが個人で負担する。三月から建設を始め、六月ごろの開設をめざす。

お便りから

埼玉県 御手洗朋子



風薫る五月 浦安も街路樹のいちよ、花水木、まてばしい、プラタナスと通りに沿ってそれぞれの並木が新緑の輝きを奏しませてください。植木の裾にはつつじが腰の辺りまでに刈り込まれ、今は色とりどりの花が咲いています。

そして連休に入り、デイズニードへのお客さんで舞浜駅はにぎやかです。

「ひろば大代」を有難うございました。人事異動も終わり心機一転、活き活きと機能されて大代が元気に動きだされていることと思います。

小学生からいただいた「大代のひまわり」も鉢の中で元気に育っています。

(十五センチ位に伸びています。)
六月八日には関西高山会の総会でですね。一年先輩の方々はこちらでクラス会も併せて行われるとか。
ご盛会をお祈り致します。

五月の行事予定

◆7日(水) 編集会議

◆9日(金) 公民館運営委員会

◆18日(日) 福祉弁当

◆21日(水) J A地区総代会

◆22日(木) 連合自治会

◆25日(日) 歩け歩け大会

「春の高野寺を歩こう」
朝8時半公民館前集合！

★——★ おしらせ ★——★

◎関西高山会総会出席者募集！

六月八日(日) 昨年と同「新北京」

申し込みは公民館までお早めに

◎社協大代支部より

本郷 大葉正博様より

香典返しに替え金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。